

# 特集

〈事例〉

## 高齢者等向けにごみ出しなどの 困り事をワンコインで支援

公益社団法人  
古賀市シルバー人材センター

(福岡県)

古賀市SCでは、高齢者や身体が不自由な地域住民を対象に、生活の困り事を支援する「ワンコインサービス(手助け隊)」を平成25年度に開始。100円と500円のサービスを展開している。“ちょっとした手助け”の中で最も依頼が多いのが、ごみ出し作業。コロナ禍でさらに需要が増している。就業会員は、利用者に喜ばれ、地域に貢献できることを励みに、サービスを提供している。

### ワンコインサービスを 平成二十五年度から開始

古賀市SCでは、栽培したサトウキビから黒砂糖を作って販売するほか、遠赤外線を発する炭および常滑焼の壺(つぼ)を使って紅はるか(サツマイモ)を焼く「壺やきいも販売」といったユニークな事業を展開している。

平成二十五年度からは、暮らしのちょっとした困り事を百円・五百円で手伝える「ワンコインサービス(手助け隊)」を開始した。サービス対象者は、市内在住で六十五歳以上の夫婦世帯または独居高齢者、一人暮らしで身体の不自由な人である。

「このサービスは、太宰府市の大学生が、ボランティア活動の一環として家事援助をワンコインで行っているという新聞記事からヒントを得て始めました」と上野辰志事務局長は事業立ち上げの経緯を語る。

同サービスを提供することでシルバー事業をPRしたいという狙いはあったが、一番の理由は「生活の中で小さな困り事を手助けしたい」という思いだった。

「古賀市の高齢化率は高く、四〇%を超える行政区もあって、独居高齢者、高齢者夫婦のみの世帯が年々増加しています。高齢化社会を明るく活力ある社会にするためには、豊かな経験や知識を持つ



古賀市SCのユニークな事業。写真右は、保育園で行った黒砂糖作りのためのサトウキビ搾り体験。写真左は、壺やきいも販売

高齢者自身が社会の担い手となり、地域ニーズに応える必要があります。現在、このサービスは市の福祉関係担当課や福祉事業所と連携しながら提供していますが、会員の生きがいづくりや、福祉サービスの質を高めるとともに、地域での見守りなどにもつながると考えています」と、上野事務局長はワンコインサービスを実施する意義を語る。

### 百円と五百円のサービスで ちょっとした手助け

ワンコインサービスは、基本的に、家事援助サービスに該当しない「ちょっとした手助け」を行っている。

PRは、チラシのほか、古賀市が作成した福祉サービスのパンフレットで紹介するなど、市と連携して行っている。

料金は、作業時間・内容によって、百円と五百円に分けられる。

百円のサービスは三十分以内、五百円のサービスは三十分以上二時間以内でできる作業に限定している。具体的なサービス内容は、以下の通り。

#### ●百円のサービス

可燃ごみ出し／資源ごみ出し(地域分別収集)／電球、蛍光灯、電池の交換(買い置きがある場合)／掃除機かけ／布団干し、取り込み(いずれか)／茶わん洗い／ボタンの付け替え

灯油の補給／クリーニング出し、受け取り(いずれか)

#### ●五百円のサービス

粗大ごみ持ち出し／資源ごみ出し(地域分別収集)／庭の掃き掃除／除草(二畳程度)／拭き掃除／ガラス戸、窓、網戸掃除(二枚程度)／洗濯物干し、取り込み(いずれか)／冷暖房器具の入れ替え(一台)／エアコンのフィルター交換(一台)／じゅうたんなどの敷き替え(一枚／三畳程度)／花壇や植木の水やり(一日／一回)／日常品の買い物(近い店舗に限る)／手紙、はがきの代筆(一枚、一筆)／衣替え(引き出しの入れ替え程度)

ワンコインサービスの受注件数は、提供を始めた平成二十五年度が二十五件。平成二十七年は十三件を下回ったが、それ以降は十三件以上を維持しており、平成三十二年度は二十四件、令和二年度は三十二件となった。

ワンコインサービスには、市外、県外に住む高齢者等の家族からの相談依頼もあり、今後もニーズが高まりそうである。

### コロナ禍で ごみ出しの依頼が増加

数あるサービスの中で、依頼が最も多いのがごみ出しに関する作業である。

粗大ごみ持ち出しは五百円のサービスで、行政区の規定に合わせて自宅前に置く、あるいは集積場で運ぶ。ごみの量や大きさによっては、台車を使ったり二人で作業を行うこともある。

なお、引越時に粗大ごみの持ち出しは、家事援助サービスに切り替える。

資源ごみ出しのサービス内容は、利用者が分別した資源ごみを集積場まで運ぶことというもの。ごみの量や作業に要する時間に応じて、サービス料金を決めている。ワンコインサービスのごみ出し



古賀市SCで行っている「ワンコインサービス」では、蛍光灯の交換が百円



写真上は芽ぶきの会の展示即売会（令和二年十一月十九〜二十日開催。写真右は「訪問理・美容サービス」

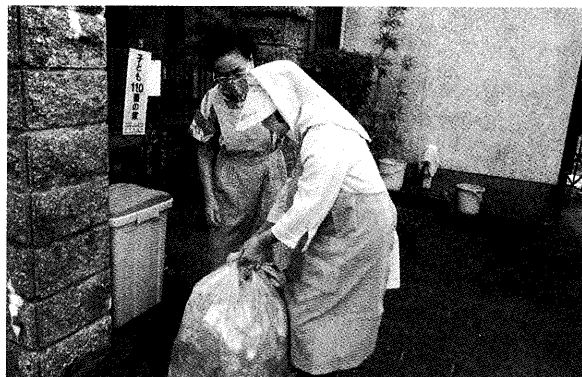
に関する受注件数と内訳は、次の通り。

- 令和二年度／十六件
- 可燃ごみ（百円）…六件
- 資源ごみ（百円）…一件
- 資源ごみ（五百円）…一件
- 粗大ごみ（百円）…五件
- 粗大ごみ（五百円）…三件
- ／十三件

- 可燃ごみ（百円）…五件
- 資源ごみ（百円）…二件
- 資源ごみ（五百円）…二件
- 粗大ごみ（百円）…三件
- 粗大ごみ（五百円）…一件

ごみ出し作業に関する受注件数は、令和二年度が前年度より七件増加の十六件、令和三年度は上半期だけで十三件と、受注件数が伸びている。

この理由について、上野事務局長は「コロナ禍でステイホームを余儀なくされたことに加え、断捨離ブームも手伝って、空き時間に物の整理をする人が増えているの



コロナ禍で需要が高まっている「ワンコインサービス」のごみ出し作業

だと思えます」と推測する。

このサービスは、「どこにごみ出しを依頼すればいいかわからなかったのを助かった」と利用者から好評で、リピーターもいるそうだ。

「ワンコインサービスをきっかけにして、当センターで行っているほかのサービス利用につなげた」と、上野事務局長は期待を込めている。

始すると同時に、独自事業とした。芽ぶきの会のメンバーは、女性会員十三人。週二回（イベント時期は週三回）、作業場でリフォーム作業を行い、「古賀市健康福祉まつり」や、古賀市社会福祉センター「千鳥苑」の感謝祭などでも販売している。一回の売り上げが、約三十万円になることもあるという。

芽ぶきの会は、東日本大震災で津波被害を受けた三陸海岸のワカメ漁師を支援する「ふんばろう東

日本支援プロジェクト」の「漁業支援・サンドバッグプロジェクト」に参加。縫製のスキルを生かし、ワカメ養殖に欠かせないサンドバッグ（砂袋）を製作した。

さらに、高齢者活躍人材確保育成事業の「小物作り体験」では、バッグなどの小物の作り方を指導する講師としてもメンバーが活躍している。

このような活発な活動は普及啓発にもつながっており、「芽ぶきの

なお、ごみ出し以外の作業依頼は、令和二年度が十六件、令和三年度（九月三十日現在）が四件であった。

### 家事援助との差別化と会員の確保が課題

一方で、家事援助サービスと混同して、依頼した作業が三十分未満で終わると、別の作業を頼もうとする利用者もいることから、現場で会員が対応に困ることもある。今後は、利用者に対してより詳しい説明を行っていく方針だ。

その他の課題としては、ワンコインサービスに対応できる会員の確保が挙げられる。

現在、同サービスの就業会員は男性四人、女性八人の計十二人。依頼があった場合は、利用者の近隣に住む会員を手配する。そのため、就業先への移動に交通費はほとんどかからないものの、配分金の面では会員のボランティア精神で成り立っている事業といえる。

会に入りたい」と希望して入会する女性が少なくないという。

このほか、生活支援の一環として、福岡県内のシルバー人材センターで唯一「訪問理・美容サービス」を行っている。利用者は、子育て中の女性や体が不自由な人、高齢者など、一人で美容院に行くのが困難なケースが大半だ。

現在、就業しているのは理美容師の資格を有する女性会員一人だけだが、「このサービスは、女性が活躍できる仕事です。多くの人に知ってもらって利用者を増やし、女性会員の獲得につなげたいと考えています」と、上野事務局長は可能性を感じている。

他センターでは、病院と提携して理・美容サービス事業を展開しているが、コロナ禍で病院でのサービス提供が中断していることから、古賀市SCでは個人利用の拡大を目指している。

同センターには、電気や大型自動車など、さまざまな免許・資格

「地域貢献ができ、感謝の言葉を掛けてもらえる」とやりがいを感じる会員もいるが、手配に苦労することは多いという。

上野事務局長は「サービス料金を引き上げれば解決できるかもしれないですが、利用者のことを考えると難しい」と、課題解決の突破口を模索中だ。

### 特技や資格を生かした事業を展開

ワンコインサービスとの連携はしていないが、廃棄物のリユース事業として、市民から寄せられたり、受託した遺品整理作業などで出た着物や帯のリフォームを行っている。

当初は、平成二十一年に発足した着物リフォーム同好会「芽ぶきの会」の互助会活動だったが、平成二十二年四月に「センター内に会員が集える場所をつくらう」という事務局の呼び掛けで、市内のイベント会場で製作物の販売を開

を有する会員が多い。

上野事務局長は「会員の技術と知識を存分に生かせるように職人集団をつくって、生活支援をはじめとする地域ニーズに応えていきたい」と展望を語った。

（井本旬子）

事業運営状況 (平成28年度～令和2年度)

年度	会員数			租入率 %	就業実人員 (延人員) (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男 人	女 人	計 人						
平成28	218	90	308	1.7	268 (27,166)	87.0	1,905	136,686	46.6/53.4
29	224	89	313	1.7	255 (25,627)	81.5	1,838	143,001	49.7/50.3
30	226	84	310	1.6	256 (25,625)	82.6	1,914	145,858	50.8/49.2
令和元	226	85	311	1.6	283 (24,203)	91.0	1,889	145,444	49.8/50.2
2	211	83	294	1.5	266 (23,596)	90.5	1,861	143,822	51.0/49.0

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む